

令和 3年度

事業報告書



社会福祉法人 永光会

特別養護老人ホーム清流の郷

管理部

特養部

デイサービス部

もくじ

1. はじめに (総括)	1
2. 管理部	4
1) 職員健康診断等状況等	5
3. 特養部	6
1) 介護課	7
2) 看護課	7
3) 栄養調理課 (給食状況)	8
4. ショートステイ	10
5. デイサービス部	12
1) 介護保険事業	12
2) 総合事業	14
3) 介護課	14
4) 看護課	15
6. 付表		
管理部	(表-1) ~ (表-5)	16~19
特養部	(表-6) ~ (表-15)	20~22
ショートステイ	(表-16)	23
デイサービス部	(表-17) ~ (表-20)	24~25

1. はじめに（総括）

令和3年度（以下「今年度」と示す）は、施設運営方針「私たちには絶対に譲れないことがある！」を合言葉に事業を展開した。少しキャッチーな運営方針を掲げたのは、収束が見えないコロナ禍の中で職員の仕事に対する熱意を少しでも高める目的でもあった。この1年間、施設内で感染クラスターが発生することなく、利用者に感染者が出なかったことはその結果のひとつと言える。

今年度は介護保険制度改正に伴う新制度やユニット定数変更等、大きな事業展開があった年度であった。詳細については各部署の報告に記載するが、ここでは一年間の事業を8つの項目（1. 利用者状況 2. コロナ対策 3. ICT 4. 制度改正 5. BCP 6. LIFE 7. 指針・規定等作成 8. SDGs）にまとめて総括したい。

1. 利用者状況

特養のベッド稼働率は目標の97.0%を0.4ポイント上回り、ショートステイは目標の90%を1.3ポイント下回った。特養とショートの合計の延べ人数は19,707人で目標の19,692人を少しではあるが達成した。令和4年度（以下「来年度」）はショートステイの定員が増えるので、より多くの方に利用してもらおうように努めたい。

デイサービスは目標8,300人に対して7,963人と未達成であった。年度途中、月間利用者数が目標を上回る月も数回あったが、冬季に落ち込む傾向にあり、結果として目標達成率は95.9%であった。

今年度の傾向として、特養待機者の減少がみられる。要介護度が高い方を優先に入居してもらおう状況で、申込み時から暫くして連絡すると入居を回避される方も多く、今後は入居申込みの募集をしていく必要性が出てくるかもしれない。

2. 新型コロナウイルス感染症対策

今年度も一年間、新型コロナウイルスとの闘いであった。緊急事態宣言発出や変異ウイルスの猛威があり、より強化な対策が求められる中、清流の郷では職員2人の陽性者が出た。しかし、その後の感染拡大にはならず収束したことは通常時の対策とともに陽性者発生後の迅速な全職員協力の結果である。

今年も秋祭りや外出行事、食事バイキングが中止となったが、感染者数軽減中にコロナ前と同様な新年会が開催できたことは明るい兆しであった。

県の警戒度レベル2の長期化で入居者には家族との面会等でご迷惑をお掛けしているので、現状で対面面会可能な方法を来年度検討したい。

なお、対策の詳細は各部署の報告に記載する。

3. ICTの導入

業務省力化のひとつである電子記録システムの導入を介護課に行い、介護記録や事故報告書等の作成を手書きではなくパソコン内のシステムで実施できるようにした。年度末までにほぼ移行ができたが、他の部署（相談員・看護・栄養）が来年度導入であるので、再来年度からは全記録を電子化できる予定である。

以前から不調であった電話機とナースコールを更新するため、年度途中で補正予算を計上した。当初は高額であるため、大規模修繕の補助を受けて実施する予定であったが、県の補助規定が変わり申請が出来なかったため、各関係業者へ問い合わせを行い、金額的に補助なしで導入できる機種を探し出すことができた。最新のインカムを使用したナースコールであるが、初期不良や職員の不慣れもあり、導入当初はトラブルが続いたが、現在は順調に稼働している。

また、年度途中から導入した「ラインワークス」は職員同士のコミュニケーションツールとしてとても活躍し、緊急時の安否確認等にも役立ちそうである。また、職員への書面でない連絡手段として、資源節約にも貢献している。

4. 制度改正への対応

今年度の介護保険法改正に伴い、新事業や加算の導入・見直しがされたが、ここではユニット定数変更について記載し、他のことは以下の項目で述べたい。

これまで1ユニット10人であった定数が法改正で15人へ変更され、以前の改修の結果で未使用となった6部屋を使用できないか県と調整してきた。年度当初の県の見解は、国の法改正に伴う県の条例改正に不備があるので定数変更ができないとの回答であったため、何度か県の担当者と打ち合わせを行い、県条例変更の要望書を提出した。その結果、3月の県議会で条例変更となり、定数変更の条件もクリアしていることから、来年度4月にユニット定数変更及びそれに伴うショートステイ増床（6人⇒12人）が実施予定である。

5. BCPの策定

国の施策のひとつとして介護施設のBCP作成が義務化された。まだ猶予期間中であるが、清流の郷では今年度作成の目標を立て、素案の作成から見直しを経て3月下旬に初版を作成することができた。

BCP作成前であったが、市のハザードマップを参考に洪水害の避難訓練を1回実施し、素案作成の参考にもなった。来年度は作成したBCPをもとに地震・洪水害を想定した訓練を行い、訓練後にBCPの見直しを実施したい。

6. LIFEについて

今年度の法改正に伴う科学的介護を促進するために新しくLIFEが導入された。清流の郷では4月の登録後にデータの集積と入力を行い、10月に一回目

のデータ送信を実施し、基本加算の取得開始となった。今年度は計6回の送信と2回のフィードバックがあったが、来年度の課題はフィードバックデータを次の介護プランに反映させてPDCAサイクルを構築することと拡張加算の導入である。またデイサービスのデータ送信は今年度出来なかったもので、同じく来年度の課題としたい。

7. 指針・規定・マニュアル等の作成及び見直し

法改正に伴い、身体拘束適正化・虐待防止・リスクマネジメント・感染症の4指針策定が義務付けられた。これまで作成していた指針も含め、4つを同じ形式に揃えることを目標に作成・見直しを実施した。また、指針策定に伴い、運営規程の見直しも必要であったため、これも以前から懸念されていた各事業所の内容や項目がバラバラであったのを同じ形式に揃える作業を行った。

結果、4つの指針及び各事業所の運営規程は10月に全て作成・改正して、職員にも周知することができた。

8. SDGsへの参画

法人が参画・支援しているSDGsの目標を達成するため、清流の郷でも色々な目標を立てた。まず、職員への啓発のため、施設内にSDGs支援のポスターを掲示し、送迎車に支援を表示するステッカーを作成した。また、内容をよく理解するため、職員1人がSDGsマイスターの検定を受け、認定された。

成果としては、コピー用紙1.5万枚、印刷費用4.5万円の削減が大きい。また、数字では表せられないが、資源削減や省エネ等に関する職員の意識は確実に高まっている。

今年度の清流の郷は記録システム・インカムナースコールの導入をはじめ、LIFEのデータ送信等、ICT化元年と位置付けられる。来年度は記録システムの拡張と眠りスキンの導入を検討しており、今後もICT化の波は大きく増幅していくことが予想される。しかし、ひとつ懸念するのはICT化という無機質で冷たい技術でケアが支配されてしまうことである。

ICT化はあくまでも業務省力化であり、そして省力化して余った時間をより利用者のケアに充てるのが目的である。冷たいイメージがあるICT化を推し進めることで暖かいケアができるような施設運営を今後目指していきたい。

2. 管理部

基本方針「私たちには絶対に譲れないことがある！」のもと、コロナ禍の今『清流の郷で仕事ができること』への感謝の気持ちを忘れず、感染症対策を行い、職員と連携を密に取りながら、利用者が気持ちよく施設をご利用頂けるように、環境づくりを行った。

【年度目標1】新型コロナウイルス感染症などの侵入をしっかりと防ぐ

(評価) 来館者入館時の検温や手指消毒の呼びかけ徹底と、毎日定刻2回、職員からのリクエスト曲を聴きながら、施設全体で換気を行った。産業医等の協力で、利用者と職員が年度3回ワクチン接種をした。職員で新型コロナウイルス感染症の陽性者が2人出たが、それ以外の感染拡大等はなく、年間を通して大きな影響は見られなかった。

【年度目標2】職員が心身共に健やかに勤務できるよう、健康増進を呼びかけていく

(評価) 渋川市の「ラジオ体操普及推進事業」に実施事業所として申請し、毎日定刻にラジオ体操の実施を施設全体として行った。熱中症予防対策として、施設各所に暑さ指数(WBGT)計を設置し、暑さ危険度の「見える化」を行い、職員や利用者が熱中症になるのを防ぐことができた。今後も継続していきたい。前年に続き、今年も愛煙家の1人が、禁煙に成功することができた。

【年度目標3】施設の環境保全や省エネに努めながらSDGsに参画していく

(評価) ラインワークスで紙を使用しない連絡の実施と、不要な企業広告FAX受信を停止設定することで、年間でコピー用紙を約15,000枚(A4サイズ)、印刷費用を約45,000円、節約することができ、ペーパーレス化に貢献できた。廃プラ削減を目指し、会議用飲料水のラベルレス化と、施設職員へのマイボトル持参推奨により、ペットボトルゴミの排出減少に努めた。

令和4年度も、施設にコロナ等感染症を入れないための対応を行い、職員との連携を密に取りながら“清流の郷で良かった”と思える職場環境づくりに取り組んでいく。

なお、年度目標以外の取組みとして、以下を実施した。

1) 職員健康診断や新型コロナウイルスワクチン接種等の状況

1. 職員健康診断状況

令和 3年 6月29日	67人 (全体職員健診)
令和 3年12月21日	23人 (夜勤従事職員健診)

2. 新型コロナウイルスワクチン接種

1回目	令和 3年 5月 2日～	6月28日	(利用者と職員)
2回目	令和 3年 7月 5日～	7月19日	(利用者と職員)
3回目	令和 4年 1月26日～	2月14日	(利用者と職員)

3. 職員インフルエンザ予防接種状況

令和 3年10月19日と26日	66人 (全体職員予防接種)
-----------------	----------------

4. ストレスチェック実施状況

令和 3年11月24日～30日	52人 (週30時間以上勤務)
-----------------	-----------------

2) 施設不在者投票・期日前投票 (特別養護老人ホーム利用者)

1. 令和 3年10月27日～28日	衆議院議員選挙	期日前投票	4人
--------------------	---------	-------	----

3. 特養部

令和3年度は、年間ベッド稼働率97.4%（目標：97.0%）と目標を達成することができた。新型コロナウイルスワクチン接種は、5月から7月に利用者、職員の1回目、2回目、1月から2月に3回目を行った。

全国的に新型コロナウイルス感染症の感染者が減少した10月から1月上旬には、場所と時間を限定し直接面会を再開することができた。（それ以外の期間は原則オンライン面会にて対応）

2月に、学生アルバイト2人がPCR検査の結果、新型コロナウイルス感染症の陽性者となったが、日頃から職員一人ひとりが、感染予防策を徹底していた結果、利用者、職員には感染者はみられず、施設内クラスターを防ぐことができた。

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

【年度目標 ①】「コロナに負けない！」楽しみのある新しい生活様式を多職種連携で創造していく

（評価） 季節の行事を多職種で協力し、開催することができた。



桜の名所へ車で外出



新年祝賀会（すごろく）



すごろくで当たった景品



おせち料理で新年を祝った



節分「鬼は外」と邪気を払った



入所者の百寿を祝った

【年度目標 ②】「コロナに負けない！」施設内のICT化とSDGsを進めていく

（評価）

LIFE（科学的介護推進情報）の入力を9月に完了することができた。科学的介護推進体制加算Ⅱを10月より算定開始。入力したデータは6ヶ月以内ごとの更新中。

介護記録を導入し、対象者と活用方法の幅を拡げることができた。眠りスキャンを1週間試験的に導入。利用者の生活リズムの把握や職員の負担軽減について、検証することができた。

SDGsは、各部署で取組内容や状況を情報共有し、進めてきた。

- 【年度目標 ③】「コロナに負けない！」地域との繋がりを構築していく
(評価) 感染状況により、実習生の受入れを行った。緊急事態宣言により、パース福祉専門学校の介護実習が中止となり、代わりに「施設と地域との繋がり」や「コミュニケーション」について、Zoomを使用しオンラインで講話を行った。

1) 介護課

- 【年度目標 ①】介護職員のレベルアップとモチベーションアップを目指す
(評価) 5月と12月に人事考課面接を介護職員に対し行うことができた。介護福祉士実習指導者講習会を介護職員2人が受講し修了した。アセッサーによる内部評価を実施し、介護プロフェッショナルキャリア段位制度レベル2②の認定を介護職員1人が受けた。新人介護職員に対しては、定期的な面談を実施した。また、アセッサーの評価方法を活用した介護技術の手順や注意点についてOJTを行った。

- 【年度目標 ②】時代に求められる施設介護職員としての役割の実践を目指す
(評価) 無資格の介護職員2人が、認知症介護基礎研修を受講できた。認知症ケア研修(権利擁護・虐待)の研修に介護職員1人が参加し、介護課会議において介護職員に対し、フィードバックを行った。介護職員2人が認定特定行為業務従事者認定証による認定を受けることができた。

2) 看護課

- 【年度目標 ①】新型コロナウイルス感染症の施設内蔓延を防止する
(評価) スタンダードプリコーション(標準予防策)の徹底を呼びかけ、利用者の発熱時の対応、新規の入所者や退院時の再入居者の対応等介護職員と連携し感染症の予防に努めた。一部の職員に感染がみられたが、蔓延することなく収束できた。
- 【年度目標 ②】看護職員全員が1回以上の研修に参加し、レベルアップとモチベーションアップを目指す
(評価) 研修の参加はできていない。次年度感染状況を確認しながら、モチベーションアップ、スキルアップに繋がるような研修の参加を促していく。

- 【年度目標 ③】ご利用者とその家族に喜んで貰える援助・ケアと人材育成をする
 (評 価) 看取り看護において、状態変化がみられた際には、ご家族に直接面会をしてもらうように配慮した。
 職員1人が入職し、看護職員として、温かい対応ができるよう育成できた。

3) 栄養調理課

- 【年度目標 ①】行事食等を4回以上企画し、日々の食事提供に活かす
 (評 価) コロナウイルス感染対策のため、例年開催しているバイキングは実施せず、7月・3月にお楽しみデザート、9月に慶祝会、その他季節のイベントに沿った給食の提供を行った。ユニットごとにいつもとは違う雰囲気での食事を楽しんで頂く事が出来た。
 (付表11「行事食」) 参照

7月昼食「七夕」
 ちらし寿司、そうめん、星形フルーツ



9月慶祝会「清流御膳」
 上：ソフト食 下：常菜



12月昼食「クリスマス」
 サーモンシチュー、星形フルーツ



3月昼食「お楽しみデザート」
 4種類の中から選択



【年度目標 ②】 喜びや安心を届けられる調理環境づくりを行う

(評 価)

異物混入防止のため、作業前に粘着ローラー使用の徹底・作業工程の見直し・物品の取り扱い方法などの再確認を実施したが、異物混入の報告は5件あった。

改善策が定着しつつあるが更なる減少に向け、来年度は調理場の照明をLED化して、異物混入ゼロを目指す。

利用者の喜び・笑顔を作り出すため、できるだけ形のある料理を提供することで、食べやすく、見た目にも楽しんでいただけるような献立作りを心がけた。

以前より導入している「ソフミート」(写真1)の切り方等を工夫して、常菜に近い見目で提供することができた。

引き続き、切り方や搾り方の工夫をしながら、今後の献立バリエーションを増やしていきたい。

汁物の濃さについての意見があり、塩分濃度計(写真2)を導入して塩味を数値化し、比較・検討を行なっている。

調理例 サーモンシチュー (写真1)

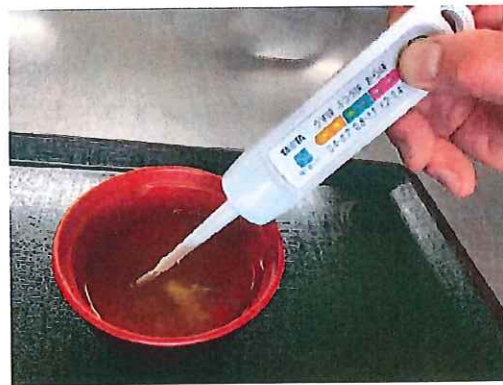
左：常菜・キザミ (サーモン)

中：超キザミ (ソフミート)

右：ペースト (サーモンペースト)



塩分濃度計を使用した
すまし汁の塩分濃度測定
(写真2)



4. ショートステイ

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策により、ショートステイ事業所内での利用者と職員の感染者はみられなかった。

新規契約者と延べ利用者数は、前年度より増加したものの年間のベッド稼働率の目標である90.0%を僅かに下回り88.7%と目標を達成することはできなかった。

サービスの質を高めるために、ユニット会議において、基本的なサービスマナー（言葉遣い等）や、認知症ケアについて見直しを行った。

サービス内容の充実を図り、「利用して良かった」「安心して利用できた」と言ってもらえるショートステイを目指していく。

事業計画の目標を達成するため、以下の取組を実施した。

- 【年度目標 ①】「コロナに負けない」楽しみのある新しい日中活動を創造していく
(評価) 季節に合わせた日中活動を企画し、屋外や室内で楽しみのある日中活動を提供した。



施設周辺の桜を楽しんだ。



東京オリンピック日本人選手の活躍を楽しんだ。



屋外で猫を楽しんだ。



コスモスの花で秋を楽しんだ。

- 【年度目標 ②】送迎事故「ゼロ」を目指す
(評価) 年度中に1件物損接触事故があり『ゼロ』を達成することはできなかった。(車輻バンパーに擦り傷ができた。)送迎マニュアルをベースに安全運転や安全な車椅子固定の仕方やシートベルの掛け方について、勉強会を開催した。

【年度目標 ③】 基本的ケアのレベルアップを目指す

(評価) 認知症ケアについては、介護職員1人が、認知症介護研究・研修東京センターが実施する日本版BPSDケアプログラムアドミニストレーターフォローアップ研修に参加し修了した。
ユニット会議において、NP I 評価(BPSDケア尺度)を活用し、ケアプログラムの作成と実施をした。

【年度目標 ④】 ショートステイベッド稼働率90%を目指す

(評価) ショートステイ年間ベッド稼働率は、88.7%と目標を達成することはできなかった。
新規のショートステイ契約は、19人と締結した。
サービス内容の充実を図り、利用者ニーズに応えるための見直しや、人材育成を進めている途中である。

5. デイサービス部

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大を続ける中、高齢者の生活をまもるため、施設方針である「私たちには絶対譲れないことがある！」を目標に以下の取り組みを実施した。

1) 介護保険事業

【年度目標 ①】 感染症対策を徹底し、感染の発生と蔓延を防ぐ

(評 価) 職員の出勤時の検温、手洗い・うがい・手指消毒を徹底し、アルコールボトルを携帯し一動作一消毒を行った。ホール、浴室、送迎車の消毒も実施した。
利用者には迎え時、到着時の検温を実施し、テーブルにはアクリル板を立てて飛沫を防いだ。
三人掛けのソファには、間隔をあけて二人で腰掛けていただき、ソーシャルディスタンスを保ちながら、定時の換気を行った。
また、利用者のコロナワクチン接種状況を確認し、他施設を併用している利用者に関係機関と連携しながら情報の収集をした。
緊急事態宣言下での職員の県外へ外出を控え、利用者及び家族が、県外へ外出する場合や家族に濃厚接触者が出た時に利用を控えて頂く協力を得た。このような対策を講じ感染と蔓延を防げた。

【年度目標 ②】 コロナウイルス感染症の影響で利用者の増員をする

(評 価) 年間延べ人数「8,300人」を目標に挙げ、関係機関に情報を提供して、今年度23人の新規利用者を獲得した。
一方で他施設に入所など、利用終了になった利用者も20人いたため、今年度は7,963人で目標を達成することができなかった。
空き情報の積極的な提供が、十分ではなかった。
利用者の満足度を上げるため、「スーパーこいけ」の出張販売や、ランチバイキング、職員による歌謡ショーなどのイベントを行った。
その反面、利用者個々の趣味や嗜好を楽しめる時間や、リラックスできるスペースが確保できなかったのも原因と考える。
(付表17、付表18) 参照

【年間目標 ③】利用者・家族が安心して利用できる施設作りを目指す

(評 価)

新型コロナウイルス感染症も含めて、利用者の状態を観察し早期に体調変化に気づき、家族やケアマネージャーに連絡し、医療機関へ繋ぐことができた。

利用者の自立支援や重度化防止につながる科学的介護L I F Eは、準備不足のため送信ができなかった。

次年度は、しっかりと取り組んでいく。

新型コロナウイルス感染症を防ぎ、365日開館により、利用者ご家族の介護負担を軽減することができた。

【年度目標 ④】職員が働きやすい職場環境作りの構築

(評 価)

利用者やご家族からの朝の電話対応を7時30分から8時00分へと変更して、早出残業を廃止した。

生活相談員業務を分散し、介護職と兼務する職員も、家族との電話対応を積極的にするようになった。

業務マニュアルの見直しは感染症（ノロウイルス）マニュアルに沿って実施訓練を行い、見直しをすることができた。

安全運転、事故防止マニュアルの見直しはなかった。

他の各委員会でも、検討や見直し、訂正は継続して行っていく。

【年度目標 ⑤】社会や環境に優しい施設運営の研究（SDGs）と災害時の事業継続計画（BCP）訓練の実施

(評 価)

SDGsについては以下の取り組みを行った。

- ・使わない場所の照明を消す。
- ・新聞紙、雑誌、段ボール、牛乳パックの分別をする。
- ・利用者へ適量の食事の提供を心掛け食品ロスを減らす。
- ・タオルを選択しくり返ししようとする。
- ・安全運転で効率よいルートで燃料を節約しCO2排出を軽減する。
- ・マイボトルを持参する。
- ・令和4年3月にBCPが策定された。

デイサービスも次年度より清流の郷BCPに沿って災害、感染症など危機的な状況に遭遇した時に事業の継続と早期の復旧を目的とした訓練、準備を行ってゆく。

2) 総合事業

【年度目標 ①】 利用者の自立支援を図る

(評 価) 地域包括支援センターと連携し、利用者の生活課題に取り組んだ。他者との交流で閉じこもりの防止に努め、自立支援のための生活動作訓練として、広告チラシでのゴミ箱作りや、タオルたたみなどを行ってもらった。
在宅生活継続のためにレクリエーションや体操で活動量を増やし、編み物や裁縫をしてやりがいや生きがいを持てる時間を提供した。

【年度目標 ②】 月平均実利用者「13人以上」

(評 価) 月平均実利用者数は「12.4人」で目標達成できなかった。関係機関に活動の様子を発信して、知名度を広めることができなかったことも未達成の原因と考える。(付表19) 参照

3) 介護課

【年度目標 ①】 新型コロナウイルスを持ち込まない、拡げない

(評 価) 基本的な感染対策の徹底と職員の健康管理、また不要不急の外出を控えた生活の継続を行った。
利用者や家族、関係機関などに感染状況を確認して情報収集を迅速に行い感染防止に努めた結果、感染を抑えることができた。

【年度目標 ②】 職員間の連携を図りながら、職務の見直しを行う

(評 価) 専任相談員のみで行っていた新規受付や電話対応を相談員が不在の場合、介護リーダーの兼務職員が対応した。
新規の受付は、受付条件等を共有することができていなかったため、他の兼務職員が対応することができなかった。

【年度目標 ③】 安全運転を厳守して、送迎時事故をゼロにする

(評 価) 利用者自宅付近、自宅内状況の情報をまとめ職員間で共有した。
また、横断歩道では歩行者優先で停止をしてマナーアップに努めた。一人一人が注意することで人身、物損事故はゼロだった。

- 【年度目標 ④】 介護技術や知識の向上により、専門職としてスキルアップを図る
(評 価) 新型コロナウイルス感染症の影響で外部研修は中止になったが、施設内研修で身体拘束等適正化の研修、介護保険法改正により、介護福祉士の無資格者（2人）の認知症基礎研修 e-ラーニングを行った。
スキルアップのため3人の職員が、介護支援専門員実務者受講試験を受験し、うち1人が合格した。

4) 看護課

- 【年度目標 ①】 新型コロナウイルス感染症に関する情報を現場で活用していく
(評 価) 県や市の感染状況について、インターネット等で情報確認した。また、利用者のコロナワクチン接種の進捗状況のチェックや、他施設を併用している利用者のリストアップ、職員、利用者、利用者の家族、関係事業者から情報収集を行った。
デルタ株からオミクロン株（BA1とBA2）に、またXe株への変異の移行、症状に関する情報も併せて収集した。
その結果、施設への新型コロナウイルス感染の侵入を防げた。
- 【年度目標 ②】 利用者の筋力アップを図り自分で「立つ、座る、歩く」を継続する
(評 価) 上半期は緊急事態宣言もありPTの来館が不可であったため、これまでのメニューで個別訓練を継続した。
リハビリ体操やレクリエーションで、体を動かす機会を設けた。また、広い施設内ではトイレや交流ホール、浴室に移動することで活動量の低下を防げた。
11月には県の警戒度が「1」となり、年明けには更に警戒度が上がってしまったものの、年間を通してリハビリを行うことができた。
その結果、利用者の筋力低下を防止できたため、転倒などでケガをする利用者が出なかった。

6. 付表

施設整備等実施状況 (表-1) 単位：千円

項目	内容			備考		
設備更新	栄養調理課	エアコン	1台	令和 3年 5月 31日更新	215	
備品購入	特養	リクライニング車いす	1台	令和 3年 7月 31日納品	125	
備品購入	デイ	バスリフト	1台	令和 3年 8月 31日納品	231	
設備更新	特養	自動電気温水器	1式	令和 3年10月 31日更新	143	
設備更新	施設全体	高圧受電負荷開閉器	1式	令和 3年10月 31日更新	803	
備品購入	デイ	75インチ液晶テレビ	1台	令和 3年11月 12日納品	208	
設備更新	特養	自動電気温水器	1式	令和 3年12月 31日更新	143	
設備更新	施設全体	電話設備更新工事	1式	令和 3年12月 31日更新	1,760	
設備購入	特養・SS	ナースコール設備工事	1式	令和 3年12月 31日設置	7,810	
設備購入	施設全体	インカム設備工事	1式	令和 3年12月 31日設置	5,830	

施設外研修と会議 (表-2) 出席件数 (前年度)

職種	部会・定例会・会議	一般研修	講師
施設長	4 (4)	5 (5)	6 (6)
特養相談員	0 (0)	2 (2)	0 (0)
デイ相談員	0 (0)	2 (2)	0 (0)
介護職員	0 (0)	13 (56)	0 (0)
看護職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
栄養調理・管理部職員	0 (0)	5 (5)	0 (0)

※研修や会議は、WEBリモート開催等を含む。今年度、県外への研修参加実績はない。

※講師は、大谷施設長が県立青翠高等学校からの依頼により出席した回数。

※運営会議と管理部会議、編集委員会は、法人開催により上記に含まない。

会議の実施状況 (表-3)

会議名	実施回数	平均出席	参加職種	会議の内容
法人運営会議	12	4	理事長、業務執行理事、事務長、	法人各事業の運営・管理及び法人懸案事項の決定
部長会議	12	4	施設長、生活相談員、管理副部長	施設各事業の運営・管理及び施設懸案事項の決定
代表者会議	12	9	理事長、施設長、生活相談員、ケアマネ、看護係長、栄養士、調理係長、管理副部長	各部門懸案事項の審議、方針の徹底等
衛生委員会	12	9	施設長、衛生委員、産業医	労務の安全性と職員の健康保持促進の検討・啓発
リスクマネジメント委員会	12	9	施設長、リスクマネジメント委員	事故分析、環境整備、マニュアル見直し
感染症対策委員会	12	9	施設長、感染症対策委員	感染症に対する対策について協議・検討
増床対策委員会	12	9	施設長、増床対策委員	ショートステイ増床対策について協議・検討
入所等検討委員会	12	10	施設長、特養相談員、第三者委員、ケアマネ、介護・看護職員、栄養士	施設利用待機者の入所順序を審議・検討
身体拘束適正化委員会	12	10	施設長、特養相談員、ケアマネ、介護職員、看護職員、栄養士	身体拘束廃止と人権を尊重したケアの協議・検討
虐待防止検討委員会	12	10	施設長、特養相談員、ケアマネ、介護職員、看護職員、栄養士	虐待の発生防止、早期発見再発防止の検討・啓発
サービス担当者会議	12	9	施設長、ケアマネ、特養相談員、特養介護・看護職員、栄養士	利用者ケアプラン作成、モニタリングなど
褥瘡対策委員会	12	9	施設長、特養相談員、ケアマネ、特養介護・看護職員、栄養士	褥瘡予防、対応方法の検討、マニュアルの見直し
特養ユニットリーダー会議	12	8	施設長、特養相談員、ケアマネ、介護課長、ユニットリーダー	ユニット介護サービス懸案事項の協議・検討
特養介護課会議	12	20	施設長、特養相談員、特養介護職員	介護サービス懸案事項の協議・研修
デイサービス全体会議	12	15	施設長、デイ相談員、デイ介護職員、デイ看護職員	デイサービス懸案事項の協議・研修
栄養調理課会議	12	8	施設長、栄養士、調理職員	栄養調理課内の諸事項の協議・研修
排泄委員会	12	6	施設長、特養相談員、排泄委員、メーカーアドバイザー	排泄介助のための協議・検討と実施、反省
栄養委員会	12	6	施設長、特養相談員、栄養士、栄養委員	給食に関する事項審議、行事食、処遇改善策
食事委員会	12	8	施設長、特養相談員、栄養士、食事委員	食事に関する事項審議 食事介助及び処遇改善
防災管理委員会	12	6	施設長、防災委員、訓練参加職員、訓練立会消防署員	防災計画、訓練実施と反省、安全管理と点検

「実施回数」は、年間の会議回数を表し、「平均出席」は、会議への平均参加人数を表す。

職員の配置状況 (表-4)

	特別養護老人ホーム			デイサービス		
	人数	年齢(平均)	勤続(平均)	人数	年齢(平均)	勤続(平均)
施設長	1	56	5.0	(1)		
事務職員	2	58	14.0	(2)		
生活相談員	1	44	14.0	1	47	7.1
				(5)		
介護支援専門員	(2)					
介護職員	27	43	7.8	8	47	6.5
(非常勤)	3	68	9.7	3	68	7.9
看護職員	5	52	5.6	2	59	8.5
(非常勤)				1	77	13.0
機能訓練指導員						
(非常勤)	1	50	14.0	1	28	1.0
栄養士	1	29	2.3	(1)		
調理職員	5	42	7.0	(5)		
(非常勤)						
医師						
(非常勤)	2	63	13.2			
清掃洗濯職員						
(非常勤)	4	57	7.6	(4)		
合計 常勤	42	46	8.0	11	51	8.0
合計 (非常勤)	10	60	11.1	5	58	8.9

() は兼務

令和 4年 3月31日現在

- ・特養介護支援専門員は、介護職員が兼務
- ・デイ生活相談員は、デイ介護職員が兼務

兼務者は合計から外す

年齢、勤続の合計は平均

職員の資格取得状況 (表-5)

		社会福祉士	介護福祉士	介護支援専門員	看護師	准看護師	管理栄養士	栄養士	調理師	認定特定行為業務者 (喀痰吸引)従事者	介護職員基礎研修
特 養	生活相談員	1	1	1							
	介護職員		25 (1)	4						22 (1)	5
	看護職員				3	2					
デ イ	生活相談員		1								
	介護職員		7	2 (1)		1				1	
	看護職員					3					
栄 養	栄養士							1			
	調理職員							1	3		
令和 3年度 合計		1	34	7	3	6	0	2	3	23	5
令和 2年度 合計		1	33	6	4	5	0	2	4	22	5

重複資格取得者あり

令和 4年 3月 31日現在

※ () 内は、令和3年度合格者の内訳人数

特養 入退所状況 (表-6)

	実利用者数	入所者数	退所者数
男	11人(11)	3人(4)	3人(3)
女	48人(51)	7人(9)	6人(10)
合計	59人(62)	10人(13)	9人(13)

(入所者内訳) (表-7)

	病院	老人保健施設	在宅	その他
男	0人	2人	1人	0人
女	3人	2人	2人	0人

(退所者内訳) (表-8)

	死亡	長期入院	在宅復帰	その他
男	3人	0人	0人	0人
女	4人	1人	0人	1人

その他1名は、夫が入所している有料老人ホームへの転居のための退所。

市町村別(介護保険者)入退所状況 (表-9)

渋川市	沼田市	中之条町
56人	1人	2人

給食数 (表-10) (単位: 食)

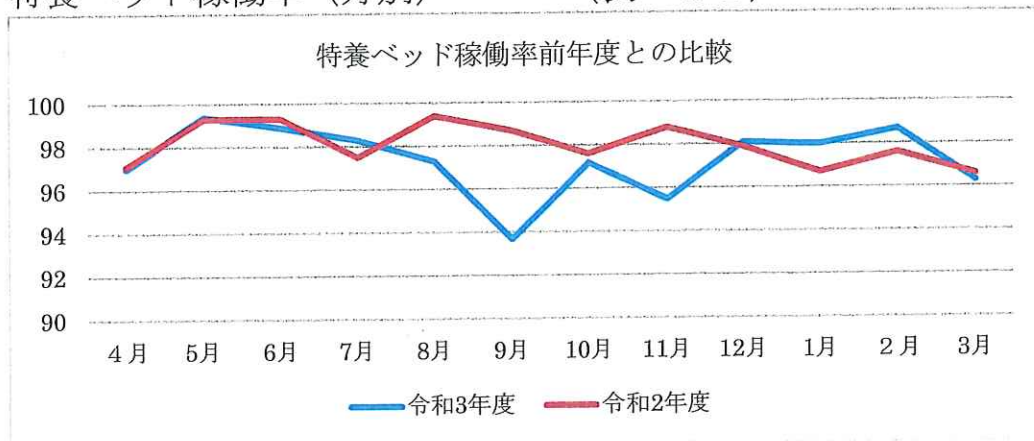
	一日平均食数	年間合計
特養利用者	148	54,160
ショートステイ利用者	15	5,330
デイサービス利用者	24	8,794
特養職員(夜勤等勤務者)	10	3,745
合計	197	72,029

行事食 (表-11)

日付	行事名	食事	食事内容
5月 6日	端午の節句 お茶会	おやつ	・柏餅、柏餅風和菓子、スベラカーゼ餅、抹茶
7月 7日	七夕	昼食 おやつ	・ちらし寿司、そうめん、星形フルーツ、他
15日	お楽しみ デザート	昼食	・和菓子、水ようかん、抹茶 ・ケーキ5種、アイス
28日	土用の丑	昼食	・うなぎちらし、なすのおろし和え、すまし汁、他
8月 13日	お盆	おやつ	・おはぎ
9月 20日	慶祝会	昼食	・栗入り赤飯、豚角煮、てんぷら(えび・かぼちゃ) メロン、和菓子、すまし汁、他
10月 2日	デイ祭り	昼食	・赤飯おにぎり、焼きそば、他
11月 23日	デイ お楽しみ会	昼食	・海鮮丼、茶碗蒸し、すまし汁、他
12月 9日	忘年会	昼食	・鍋、うどん、刺身、ほうれん草の胡麻和え、他
22日	冬至	昼食	・かぼちゃ御飯、他
23日	デイ忘年会	昼食	・海鮮ちらし、寄せ鍋、茶碗蒸し、他
24日	クリスマス	昼食	・サーモンシチュー、星形フルーツ、他
		おやつ	・クリスマスケーキ、シャンメリー
28日	餅つき	おやつ	・おしるこ、おろし、きな粉、他
31日	大晦日	夕食	・年越し天ぷらそば、ほうれん草の萌黄和え、他
1月 1日	新年祝賀会	昼食	・ぶり照り焼き、豚角煮、紅白なます、黒豆、雑煮、 栗きんとん、きんぴら、紅白蒲鉾、昆布巻、みかん、 伊達巻、里芋煮、他
7日	七草粥	朝食	・七草粥風、他
10日	初釜	おやつ	・おしるこ、抹茶
2月 3日	節分	おやつ	・鬼プリン
3月 3日	ひなまつり	おやつ	・桜もち、他
21日	お彼岸	おやつ	・ぼたもち
30日	デイランチ バイキング	昼食	・どんぶり、天ぷら、菜の花のお浸し、他

・毎月1日は赤飯提供

特養ベッド稼働率（月別） (表-12)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
令和3年度	97.0	99.4	98.9	98.3	97.3	93.7	97.2	95.5	98.1	98.0	98.7	96.3	97.4
令和2年度	97.1	99.3	99.3	97.5	99.4	98.7	97.6	98.8	97.9	96.7	97.6	96.6	98.0

特養 月別 入院者推移 (表-13)

実入院者数	7人	延入院者数	7人
延入院日数	187日	一人平均入院日数	26.7日
最長入院日数	89日	最少入院日数	4日

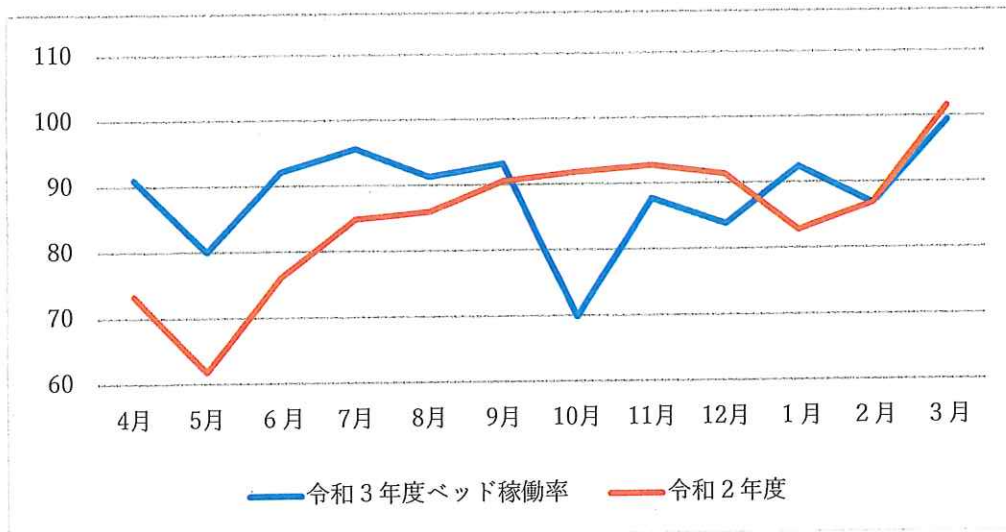
特養 月別 実入院者数と延入院日数（月別） (表-14)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実入院者数（人）	1	0	0	0	0	2	1	1	2	1	1	1
延入院日数（日）	15	0	0	0	0	41	31	29	9	27	5	30

特養 令和3年度実習生受入れ (表-15)

実習校名	実人数	延人数	備考
群馬パース大学福祉専門学校	2人	20人	介護実習Ⅱ
群馬県立渋川青翠高等学校	2人	2人	介護職員初任者研修
群馬社会福祉専門学校	1人	5人	介護職員実務者研修

ショートステイベッド稼働率前年度との比較 (表-16)



ショートステイ利用者推移 (月別)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和3年度 合計	令和2年度 合計
実利用者数 (人)	16	13	13	17	14	15	13	16	13	15	12	13	170	184
ベッド稼働率 (%)	91.1	80.1	92.2	95.7	91.4	93.3	69.6	87.8	83.9	92.5	86.9	99.5	88.7	85.0
ベッド稼働率 (日)	5.5	4.8	5.5	5.7	5.5	5.6	4.2	5.3	5.0	5.5	5.2	6.0	5.3	5.1
延べ利用者数 (人)	164	149	166	178	170	168	130	158	156	172	146	185	1,942	1,862

通所介護 実利用者・延べ人数・稼働率 (表-17)

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数	1日平均利用者数	1日目標数	平均稼働率
平成29年度	365日	857人	9,257人	25.4人	26.0人	97.70%
平成30年度	365日	815人	9,027人	24.7人	26.5人	98.98%
令和元年度	366日	803人	9,020人	24.6人	24.5人	100.40%
令和2年度	365日	700人	7,940人	21.9人	24.5人	89.40%
令和3年度	365日	651人	7,963人	21.8人	22.7人	95.90%

通所介護、要介護度別利用者推移 (表-18)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
平成29年度	4,055人	3,211人	1,002人	618人	371人	9,257人
	43.80%	34.69%	10.82%	6.68%	4.01%	100%
平成30年度	3,549人	3,178人	937人	563人	800人	9,027人
	39.32%	35.20%	10.38%	6.24%	8.86%	100%
令和元年度	3,315人	3,132人	1,220人	506人	847人	9,020人
	36.75%	34.72%	13.53%	5.61%	9.39%	100%
令和2年度	3,105人	2,425人	1,417人	506人	487人	7,940人
	39.11%	30.54%	17.85%	6.37%	6.13%	100%
令和3年度	2,865人	2,602人	1,238人	779人	479人	7,963人
	35.98%	32.68%	15.55%	9.78%	6.01%	100%

通所介護予防、月別利用状況 (表-19)

	営業日数	実利用者数	延べ利用者数	新規利用者数	平均利用者数
4月	30人	14人	98人	1人	3人
5月	31人	14人	96人	0人	3人
6月	30人	15人	103人	2人	3人
7月	31人	12人	86人	0人	3人
8月	31人	12人	88人	0人	3人
9月	30人	11人	80人	0人	3人
10月	31人	11人	81人	0人	3人
11月	30人	11人	80人	0人	3人
12月	31人	11人	81人	0人	3人
1月	31人	12人	83人	1人	3人
2月	28人	13人	84人	1人	3人
3月	31人	13人	102人	1人	3人
令和3年度	365人	149人	1,062人	6人	3人
令和2年度	365人	152人	1,054人	6人	3人

通所介護年間行事 (表-20)

月	行事名	内 容
4月	お花見	送迎時に花見の実施、おやつは施設にて召し上がる
5月	お楽しみ会	スーパーこいけの移動販売
6月	おやつバイキング	バイキング形式でパフェ
7月	七 夕	七夕飾りを作成し、交流ホールへ設置
8月		
9月	デイ祭り	露店：焼きそば、射的、写真館等
10月	お楽しみ会	職員による歌謡ショー
11月	作品展	デイで作成したパッチワークの個人作品を展示
12月	忘年会	デイホールで忘年会、感謝状贈呈を実施
1月	初 詣	絵馬を作成し、清流神社へのお参り
2月	節 分	無病息災を祈り、豆まきを実施
3月	ランチバイキング	海鮮丼、天ぷら、ウナギ、デザート等提供

イベント浴は年4回

5月は「菖蒲湯」、7月は「薔薇湯」、10月は「リンゴ湯」、12月は「柚子湯」を企画して、毎月26日を「風呂の日」として実施。